

第2期のべおか子どもの豊かな未来応援プラン（延岡市子どもの貧困対策推進計画）（案）へのご意見及び市の考え方

No.	ご意見	市の考え方
1	<p>私が子供の頃も世帯年収が100万円前後の貧困家庭でしたが、当時と比べると格段に支援の体制が出来上がっており、大変すばらしいと思います。</p> <p>実体験として「子どもの豊かな未来応援」というならぜひ検討していただきたいのが、「受験料の補助」と「受験会場への交通費補助」です。</p> <p>私は小さい頃から大学への受験はすっぱりあきらめていましたが、都城高専のことを知り、入学料・授業料の免除もあって、「ここなら高等教育が受けられる」と夢と希望をもったものでしたが、そこで大きくハードルとして立ち上がったのが、受験料と交通費でした。都城だと宿泊費も必要でした。</p> <p>合わせても2万円もいかない程度でしたが、それでも工面できず、あきらめなければならぬ。たかが2万円が未来のために出せない。これが貧困家庭です。</p> <p>貧困家庭の子供は、小さい頃から高校や大学は「お金がないから無理」と親からいわれ続けます。少なくとも私の頃はそうでした。それでも、貧困から脱出するには高等教育機関へ進学することが一番の近道です。それをたかが2万円いかないうちで閉ざされるときのあの絶望を、これからの子どもたちに味あわせたくないです。</p> <p>延岡には大学ができましたが、例えば工学や経済系を学びたいと考える子供がいたら、やはり市外を志向しなければなりません。そこにチャレンジできる環境を延岡の子供たちにつくってください。ご検討よろしく願いいたします。</p>	<p>受験料及び受験会場への交通費については、現在のところ、生活保護世帯に対する高校や高専の受験料の支給制度はあるものの、それ以外の本市の支援制度で適用となるものはありませんが、国では、日本政策金融公庫の「国の教育ローン」を令和3年度に取扱内容の変更を行っており、大学等の受験料及び受験のための交通費・宿泊費を含む受験費用について、合格前でも利用ができるようにしております。</p> <p>市としましては、この制度の周知を強化し、子ども達の進学を応援してまいります。</p> <p>また併せて、市外の大学進学に対する応援という意味でも、進学後の負担軽減の制度である、宮崎県ひなた創生のための奨学金返還事業、延岡市育英会奨学金、市提携教育ローンのほか、コロナ禍における緊急的な融資制度として設けている延岡市教育資金緊急融資制度がございます。このうち、宮崎県ひなた創生のための奨学金返還事業は高専の4年生以上も対象となります。また、市育英会奨学金は高校生や高専生も対象となります。</p> <p>さらに、宮崎県ひなた創生のための奨学金返還事業と市育英会奨学金については、延岡市で就職した場合は返済補助を行いますので、そのことについても周知を強化し、子ども達の進学を応援してまいります。</p> <p>なお、ご参考までに、その制度のチラシも回答の参考資料として公表させていただきます。</p>